播種から収穫まで自分で考えて
栽培することにやりがいを感じています。

農業に懸ける情熱

1 就農したきっかけ

実家が農家だったため、幼いころから農作業の手伝いをしていましたが、将来農家を継ぐかどうかは特に考えることなく、高校卒業後は岩手県の工学部のある大学に進学しました。

しかし、両親が60歳を迎えたことをきっかけに、「今が農業を継ぐ良いタイミングかもしれない」と考えるようになりました。また、農業は自分のペースで働くことができ、何かに追われることなく自由に時間を使えるといった魅力があると感じていたため、地元に戻って26歳で農業に従事しました。

2 就農当時のこと

幼いころから日常的に農業に触れて育ってきたこともあり、農家になることへの抵抗はありませんでしたが、実際に農業に携わってみると、想像以上に忙しい毎日でした。また、当時は作業にも慣れていなかったため、トラクターの給油キャップを閉め忘れたまま作業をしてしまうなど、失敗も少なくはありませんでした。

それでも、農作業を手伝っていた経験から、「仕事をしなければならない」という義務感はあまりなく、昔と変わらず日常生活の一部として農業を営むことができています。

3 経営者として大変なこと

父から経営を引き継ぐまではトラクターを運転したり畑を耕すことが仕事の中心でした。経営を引き継いでからは、作物の生育に関する知識、経験を活かして、その時の状況に応じて適切な対応をすることが求められるようになり、大変だと感じています。

その反面、播種から収穫までの過程を全て自分の力で考えながら行うのは面白くもあり、強いやりがいを感じています。何かに挑戦したいと思ったときに着実に取り組むことができるように、日々の丁寧な作業を心掛け、より多くの知識と経験を身に付けていきたいです。

4 青年部活動について

地元の先輩から誘ってもらったことをきっかけに、地元へ戻った年に青年部に加入しました。加入当初は知り合いが少なかったのですが、青年部活動を通して盟友との交流が増えたことで、「横のつながり」を作ることができました。現在でもお互いに情報を共有したり、困ったときには相談するなど、何でも気軽に話せる仲間を作ることができたので、青年部に加入して良かったと感じています。

現在は北村支部の支部長を務め、運営側として活動を行っています。支部の盟友が楽しく活動することができるように、これからも積極的に青年部活動に取り組んでいきたいです。

人物 memo

岩見沢市北村大願
横山　紘貴 さん（35歳）

妻の早紀さんと父の均さん、母の美保さんの家族４人で約25haの農地に水稲と小麦を栽培。高校卒業後は岩手県の大学に進学。両親が60歳の節目を迎えたことをきっかけに地元へ戻り、26歳で農業に従事。現在は青年部北村支部の支部長も務め、充実した農業生活を送っています。